

ワンポイントレッスン

ここでは学級やサークルなどで、中学生や高校生が指揮をするときの、注意をまとめてみました。学校の先生が、生徒の皆さんに指揮を教えるときに参考にしてください。具体的な指揮の仕方は実際のレッスンで体感して下さい。あくまで基本的な確認事項です。

演奏前の心構え

- 歩き方、礼の仕方など身のこなしを、スマートかつ堂々と振る舞おう。
- 礼が終わったら、一度演奏者全員を見渡して、準備ができているか確認しよう。
- 手を上げて構えたら、演奏者の気持ちを指揮者に集中させよう。集中したら演奏をはじめよう。

合唱曲の前奏や間奏について

- その曲のイメージを伝えるもので、とても重要です。ピアニストに任せっきりではなく、ピアニストの方を向いてきちんと振ろう。表現に幅をもたせるためにも時には両手を使おう。

演奏中の指揮の仕方

- 指揮の最中の「立ち方」に気をつけよう。片足だけに重心がかからないよう注意しよう。
- 前後、左右に無意味に揺れないようにしよう。
- いつも全体を見渡そう。特に重要なパートはしっかり見よう。目の力は強いです。ときには目をキラキラさせて（キラキラ光線！）
- 良い指揮、演奏しやすい指揮は、「まず演奏者が息を吸えること」です。それには指揮者がすすんで息をしっかり吸おう（でもあまり音は立てないでね）
- 予備の指揮は、遅い曲で1拍、速い曲だと2拍くらいが最適です。
- 合唱の場合はできるだけ歌詞を暗譜して、すすんで口を大きく開けよう。でも声は出さないでね。（歌が聞こえなくなってしまう）
- 合唱の場合、主旋律だけを口パクしないよう、また合奏の場合でも、主旋律だけを歌ったりしないように気をつけよう。対旋律や伴奏にも気を配ってください。
- いつも左右同時（左右対称）に手を動かさないように注意しよう。
- 左手はあまり動かさないで胸元に。指示を出したり、表現を補うとき以外は止めておいたほうが効果的です。
- 音符だけでなく、休符やブレスに注意して振ろう。
- 強弱に合わせた指揮をしよう。大振りになったり、小さすぎたりしないようにね。
- 長い音符のところでも、きちんと拍を振ろう。（フェルマータは例外、止めます）
- 手首やひじを使いすぎて、グニャグニャの指揮にならないように。気をつけよう。特に大編成だったりビート感のある曲では、30cm～38cm くらいの指揮棒を持つことをお勧めします。合奏だけでなく合唱の場合でも指揮棒を持った方が見やすく、癖が出にくいのできれいに振れますよ。

演奏が終わったら

- 合唱が終わっても後奏があるときは、前奏と同じでしっかり振ろう。
- すぐに手を下ろさないように。響きが完全になくなるまで、止めておいて。
- 終わりの礼や退場するときにも、スマートかつ堂々としよう。